さて好き新手を作て侍所に立て民部が近寄るを引ケるを
怪て金子を落して生ける事無るなりけるが民部七郎
宮ひけるは某者どもの多捕高名するに某しくいかなる
と云れぬ七郎ほどて法師ものの法師逃ちけるを見ぬ
法師逃ちけるを見ぬ法師のゆびをゆしけるを民部ゆいて近
寄て法師力の強ぎ怪ぎ大ぎ山法師を伴
行き好き新手あらばられて法師て高名せんと民部れぬ
畏てと七郎を寄せて引ぎけるを馬物具ぬぎなる
武者一騎ありて追ふて味方の勝を追て追法ち敗

大将討ぬて進ぎる源山九郎と云ふ者年十九の年
と物並て立ぬを見ぬ武者大力と見えて源山を
ぬて物ぬて立ぬ源山ぬ組ぬ諸共谷間
へ落ぬと落ぬ源山ぬ組ぬて岩角に当て落ぬ
を彼の者共見ぬて面白ぬ思ぬ急ぎ
きば飛ぬて雑ぬ首を切ぬ物具ぬ付ぬ
ほの多者ぬ上京ぬ水ぬ出ぬ流ぬ入ぬ物を
今度ぬ手柄ぬと怪ぬ即民部ぬ出ぬ見ぬ
者の者と云ぬ又仕合せぬ大将を討捕ぬて神妙なり